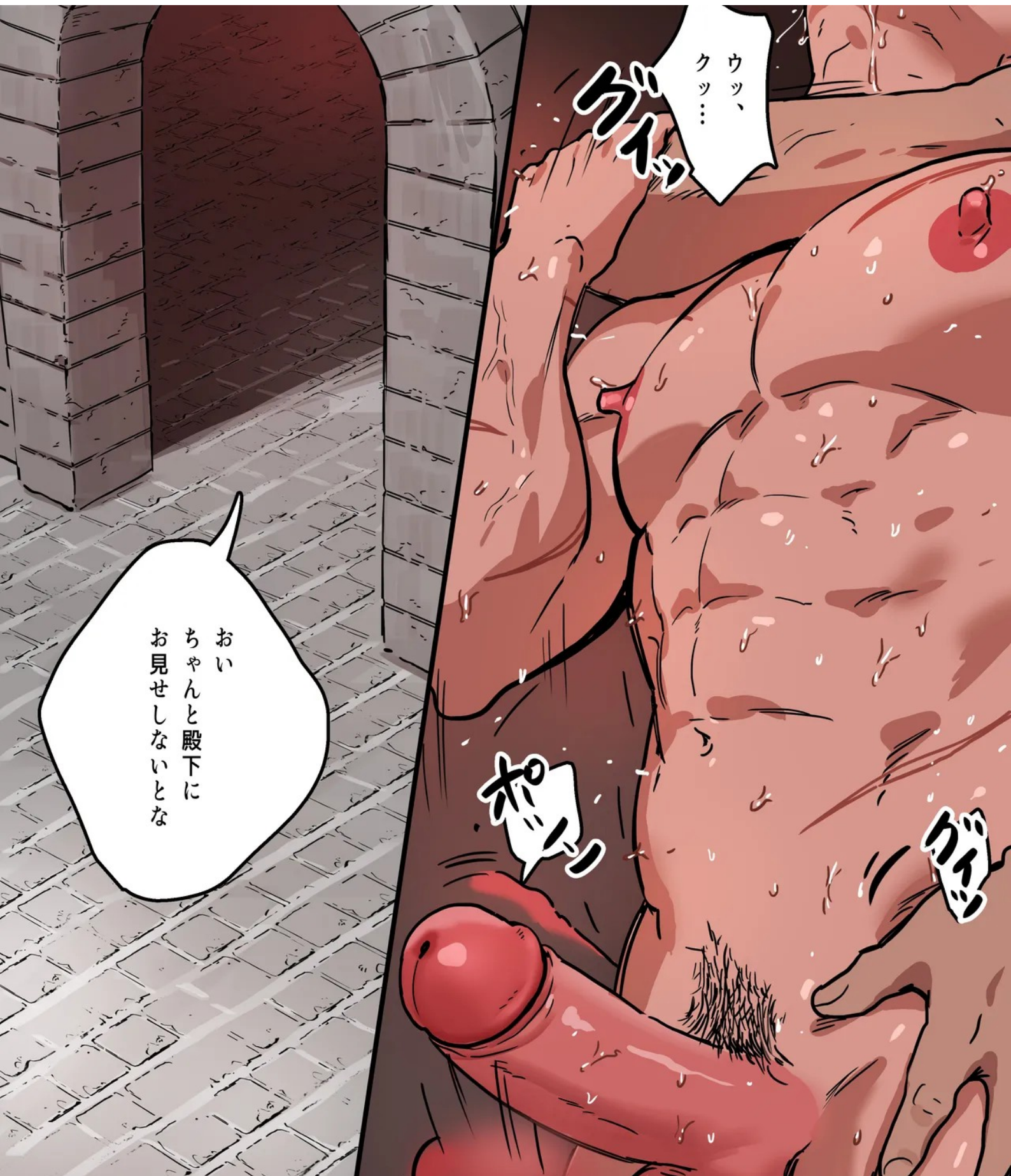




皇太子の庭園 2

勇者に罰を与えた後
皇太子は段々勇者のことが
気になっている



ウツ、
クツ…

グイッ

おい
ちゃんと殿下に
お見せしないと

和

グイッ

さあ
殿下にもっといいもん
見せてさしあげて

クッ！

クッ
クッ

こいつ
あれだけ打たれながら
勃たせていたんです

これを
見てください

殿下

ウッ…

フウッ、

クッ
クッ





ぞろぞろ

あつ、

...うっ...

ウッ、

はぁっ

クッ

誰とやった？
うん？

へへ...
こいつ
もうどこかで
やってきたいです

はぁっ

うっ

私の...
精液が...









クッソ...!!
また...

15歳のこども
でもあるまいし
なんたる...!!

かッッ

カアールは庭園で
勇者に会った日から
よく勇者の夢を見た
夢の内容はますます
エッチな方になって
彼を困惑させた

あまりにも汚いから
興が冷めた

ピクリ

あつ、
はい？…
は、はい！

やめろ！

実際あの日
夢で見たようなことは
起きなかった
カールが突然怒って
罰を与えることを
中止させたからだ

う、

放してやれ！

はい！

カールは勇者が
苦しむ姿を見ると
気分が晴れると思ったが
実はその逆だった

見てられない
何が面白い
見せ物っていうんだ！

グイッ

そしてカールは
何故かその後
勇者のことが
気になってきた

今勇者って
言ったような…

殿下？
どうなさい
ましたか？

勇者が再び王城を訪れたという
話を聞いて
カールは自分も知らないうちに
勇者を探していた
この前打たれたところは
治ったのかすごく気になった

ここにいたのか…
何をしている？

服の中に隠してるに
決まってる
全部脱がして
見つけ出してやる

...

グイッ

成人になったばかりの
貴族子弟は
好奇心旺盛だった
噂の平民勇者が
愚かな姿で現れたのは
飢えているハイエナの前に
肉の塊を置いたのと同様だった

身体の中に入れて
隠してるかもしれないぞ

お前じゃなくて
誰が盗むっていうんだ！
お前ほどの貧乏が
どこにいるんだ！

ぼ、僕は
本当に...

勇者は困った
状況にあった



こ、皇太子
殿下！

勇者は
王室の客だ

お前らが勝手に
失礼なことをしても
いい相手ではない

お、おい
静かにしろ！
申し訳ございません
でした皇太子殿下！

そ、それが
あいつの悪い癖を
なおしてや

ウッ！



ドラゴンも捕らえる勇者が
あんなくだらないもめ事も
自分で解決できないのか

情けないな

カアールは多少緊張もしたし
いきなり勇者に優しくするのが
照れくさくて
本音でもないことを
口にしてしまった
しかし心の中では勇者が自分に
感動したのか気になった

皇太子は
勇者を嫌がると
聞いたんだけど…
嘘だったのか

チエツ

しかしカアールの
期待と違って
勇者は先より
もっと緊張していた

どきり

で、殿下

も、もうし…
申し訳…
ございません

どきり

いや…

私は…
ただお前が…

カアールは誰かに
拒まれた経験が
あまりなかったうえ
自分が優しく接した相手は
必ず自分に好感を
示してきたので
勇者の様子を見て
ショックを受けた

そんな貧乏な服を着てるから
あんな疑いを
受けるのではないか

結局カアールの口から
出てきた言葉は
すごく冷たかった

ぽあんと

あ…

王様よりいただいた金が
少なくないと聞いたが
まともな服も着ないとは…

びん

二度とそんな格好で
私の前に表れるな

びん

カアールは勇者の前で
まるで自分が
悪党でもなったように
感じられて凄く嫌な
気持ちになった
彼は再び勇者に
関心や優しさを
施さないと決めた

カアールが再び勇者に
会ったのは
貴族の親睦用
狩猟競合の時だった

ここは
危ないモンスターが
出ないから
単独行動もできます

そうか

この辺で
武器を整えて
始めましょうか

勇者も貴族の護衛のために
同行することになった
カアールは彼を気にせずに
見ないようと決心した

しかし、
その努力にもかかわらず
遠くから見た勇者の姿に
カールは目を奪われた

すこし痩せた
ように見えるが…

…やはり
私が酷く
打ったせいで…

皇太子の言うことを気にして
少し良い服を
着て来た勇者は
夢よりももっと素敵だった



ウッ、

あの平民のことを
心配するとは…
どうかしてる

あ
レイラ嬢

殿下

わりと安全な
地域とはいえ
華奢な令嬢には
きついはずだが、
大丈夫なのか

ふふふ…
殿下の素敵な狩り姿を
この目で観たくて
父におねだりして
ついてきたんです

あなたの美しさを
見ると意志が
燃え上がるな

あら…

今日君のために
素敵な獲物を
狩ってくる

嬉しいです
殿下…！

ホイッ

キリッ

…

見ていない

殿下が一番
よい獲物を狩ることを
祈っていますよ！

子供のやることを
この私が：

どうかしてる

カールは無意識的に
勇者の関心を
引こうとしたことで
顔が赤くなった

た、楽しみに
していてもいいぞ…
それじゃ…

はい、殿下！
お気を付けて！

一方、前日勇者を
いじめようとした
貴族子弟が
勇者を見つけた

おい
久しぶりだな

カアールもそれを
見たが気にせずに
その場から
離れることにした

私は別行動するから
ついてくるな

はい

これ以上
かかわっても
あいつは
ありがたいと
思わない

むしろ
ビビるかも
しれない…

あ…
宝石ゴーレムだ

カッ

カッ

石からなったモンスター
砕くとランダムに
宝石が入っている
運がよければ
ダイヤモンドも得られる

しかし
カールは獲物を
追う中でも
落ち着くことが
できなかった



あつ、
とん

これで
アクセサリを作ってやれば...

アクアマリンか...

で、殿下のプレゼント...
嬉しいです

とん♡

同時刻

ちやんと
股を開いて！

勇者はカールの
推測とは違い
あまり楽な
状態ではなかった

また余計な
ことを…

あのアホは
呑気に景色など
見ているはずなのに

…

クフフ
あの勇者様様も
全部脱がしてしまえば
ただの獣に
過ぎないな

あ、
ああ…

クッ、

おい！
ちゃんと
孔を開いて！

う、

若い貴族たちは
勇者を裸にした後
恥ずかしい姿勢を取らせた
一行が遠くないところいたので
勇者の体は
小さな音でも
緊張した



クッ

ハハ
本当に
最後まで入ったよ!

ビュビュ

オオッ!

おいっ...
凄い勢いで
精液噴いてる...
こいつ完全に
変態野郎じゃないか

オッ

クッー

ガッ

太いキノコの突起は
勇者の内壁を
深く刺激した
勇者が乳首と性器を
勃たせると
そのエッチな姿をみて
若い貴族たちは楽しくなった



ハハ...

もっと腰上げて
股を広げろ

グイッ

小さな獲物なんかより
この大きな獣を
飼いならした方が
よっぽど楽しそうだ

おい
ここでやるきか?

ヒッ

ウワッ
孔の奥が
見えてる...

スウッ



で、殿下!



これから
この者に
近づいたり

このくそ…

お前らが
群がっていることを
もう一度見たときは
ただじゃ済まないぞ

は、はい！

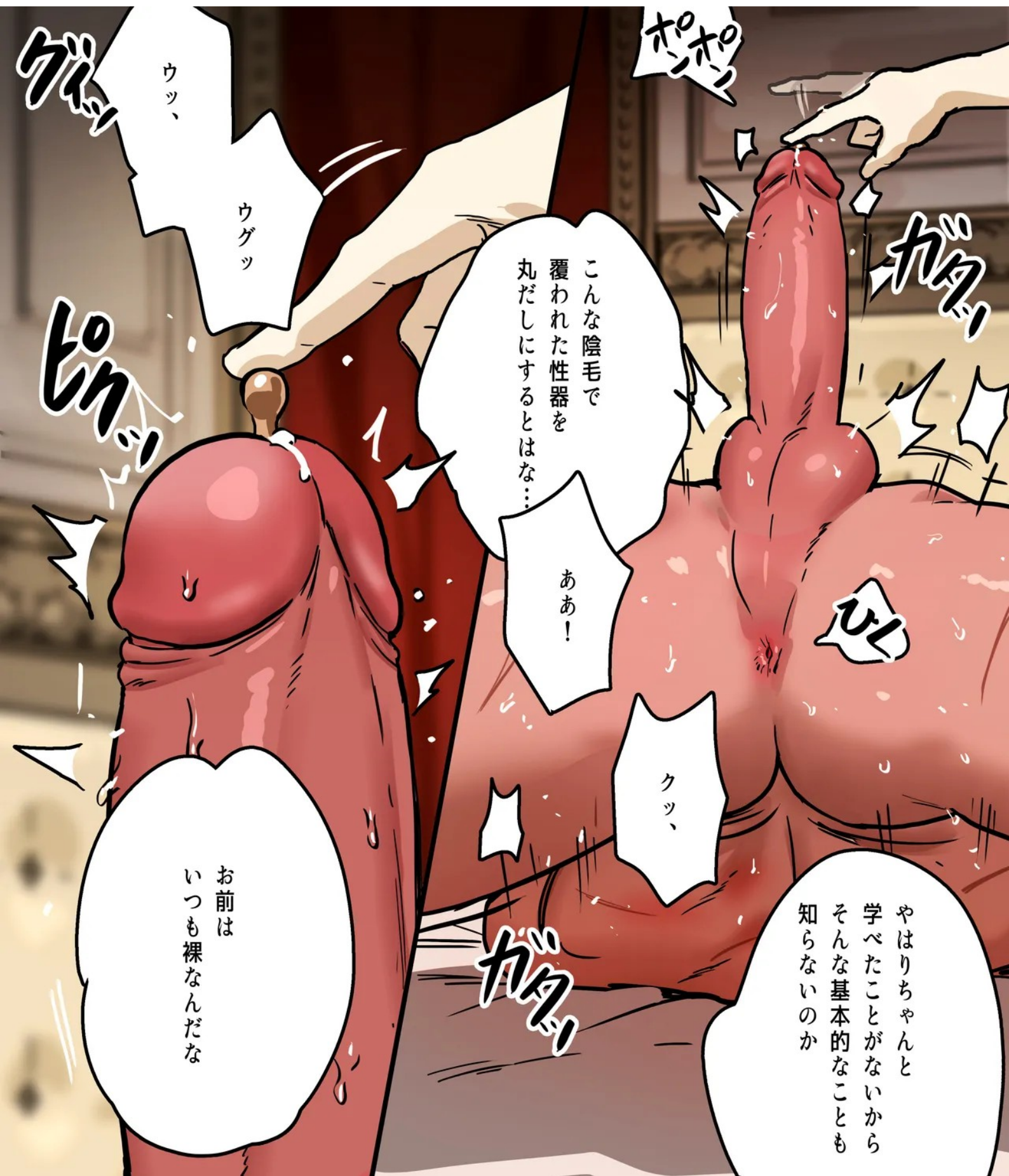
申し訳
ございません
殿下…

汚い野郎ども…





カールは他の人たちに
何も言わずに
勇者を連れて
二人で王城に戻った



ウッ、

ウグッ

こんな陰毛で
覆われた性器を
丸だしにするとはな...

ああ！

クッ、

お前は
いつも裸なんだな

やはりちゃんと
学べたことがないから
そんな基本的なことも
知らないのか

グイッ

獣扱いされるのが
好きな奴らが
いると聞いたが

いくら貴族の
命令とはいえ
お前は
少しも抵抗しなかった

あ！

まさにお前が
そんな奴だったとはな

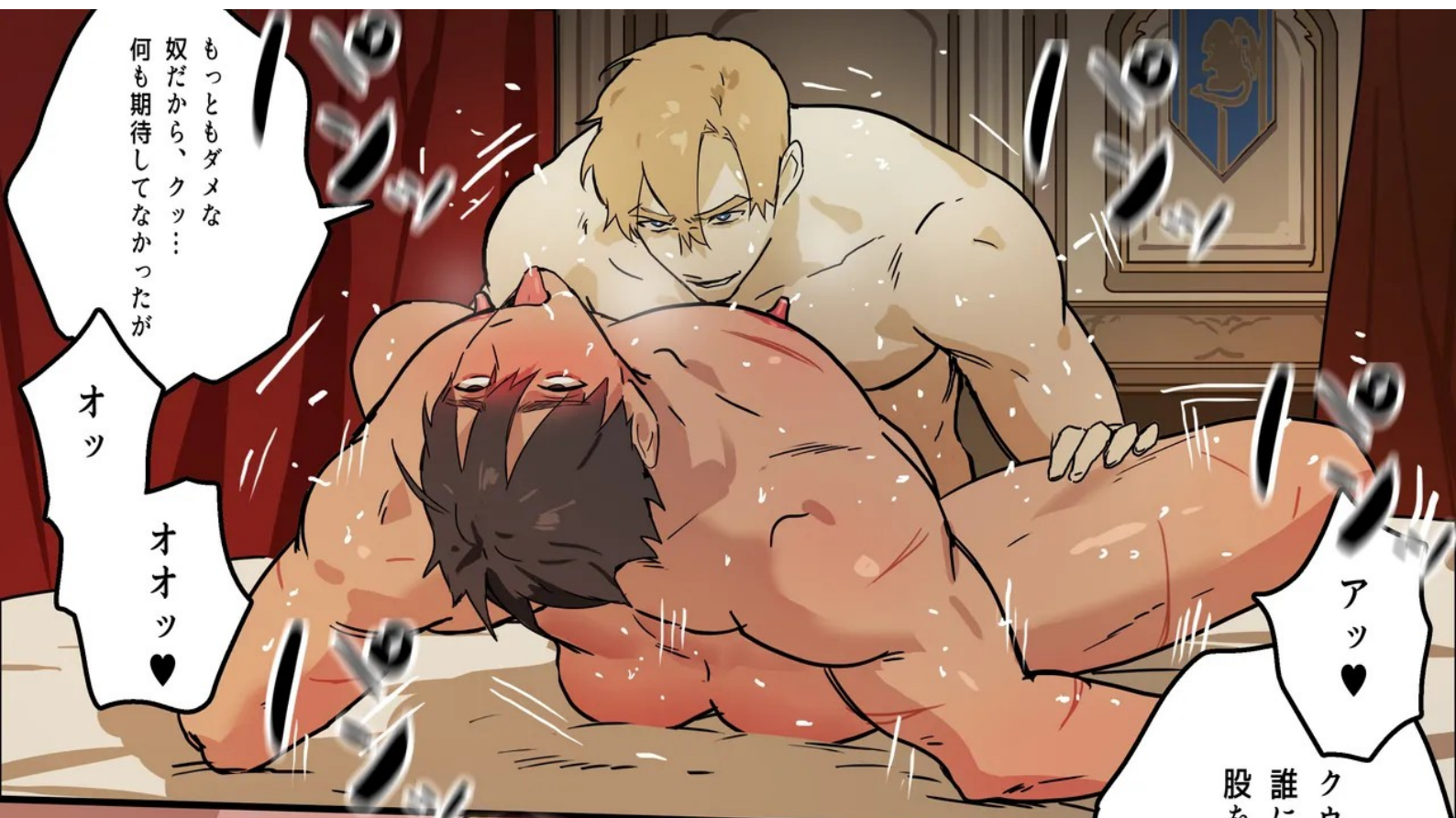
フウッ、

で、殿下…

グイッ

グイッ
グイッ





もつともダメな
奴だから、クッ…
何も期待してなかったが

オッ

オオッ ♡

アッ ♡

クウッ！
誰にでも
股を開いて、

ウクッ、



獣みたいにな、ハア！
…発情する
奴だったとは…

あ ♡

ウツ♡

さあ
どうだ

お前が満足できるよう
特別な形で
用意したぞ

クツ
い、いく……!

びやん

ウクツ♡

カールは今まで
混乱していた感情を
八つ当たりでも
するかのように
勇者の体に爆発させた

あ……!

スッホ

スッホ

スッホ

あ……!
ああっ……!

スッホ

クツ
凄く
狭い……

ぼ、僕が…
ダメな
奴で…

で、殿下…
これ以上は…

三四時間後

勇者は、自分が何を
言っているのかも分からずに
ただその状況から逃れるために
叱られるとき
よく聞いた言葉を
ただ言うだけだった

で、殿下のものを
入れたくて…
我慢で
できませんでした…

…何を
謝るんだ？

も、申し訳
ございません
どうか
お許しを…



い、いいえ…
嬉しいです殿下…

はっ、

殿下のり、立派な
ものが入って
光栄で、
クッ！

勇者はキスで
再び興奮したカアールを
深いところまで受け入れた
直ぐ勃起してしまった
勇者の性器を見た
カアールは満足だった

ピクッ

グイッ

クッ、

私のものが
そんなに
欲しかったのか

まさか
嘘を
ついたのか

あ、
殿下…？

数
日
後

勇者様
これ着てみて！

あ、それは売って
金貨をもらうんだ

俺には
もったいない…

勇者様
それ聞いた？

今回は
金貨も多いし
服と剣もある

惜しい
これ完全に
勇者様のサイズなのに…

凄い

うわあ





同時刻

今頃
賜物が勇者の
村に届いたはず…

気にして
勇者にふさわしいものを
もっと送ったけど
今度それを着て
訪れるといいな

カールは
本人が全く勇者の
タイプではないことに
気づかずに
今さら勇者に
ハマってしまった

END